

三香の原の新しき都を讃むる歌一首 并せて短歌

三九〇七番

山背の 久邇の都は 春されば 花咲きををり
秋されば もみち葉にほひ 帯ばせる 泉の川
の上つ瀬に 打橋渡し 淀瀬には 浮き橋渡し
あり通ひ 仕へ奉らむ 万代までに

反歌

三九〇八番

楯並めて 泉の川の 水脈絶えず 仕へ奉らむ
大宮所